

おあしす



平成 28 年 10 月 15 日 名古屋学院大学「栄サテライト」で開催された秋季シンポジウム「中央アジアにおけるラクダ牧畜ーラクダと人間の相互交渉の歴史と現状ー」実行委員長：今村薫会員

上段左：アル・ファラビ カザフ国立大学 ヌルタジン教授 上段中央：酪農学園大学 星野仏方会員 上段右：酪農学園大学 石井智美会員 中段左：国立遺伝学研究所 斎藤成也会員 中段中央：北星学園大学 風戸真理会員 中段右：名古屋学院大学 今村薫会員 下段左：シンポジウム終了後の参加者記念撮影 下段右上：今村会員講演から、世界のラクダの分布 下段右下：モンゴルレストラン「シンキロー」で開催された懇親会 ゲルを装った宴会場は停電に見回れましたが誰一人動じることなく・・・

日本沙漠学会 2017年 第28回学術大会プログラム

場所：千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 東京スカイツリータウン (R) ソラマチ 8F
アクセス：http://www.it-chiba.ac.jp/skytree/index.html

大会概要

期日：2017年5月27日(土)～5月28日(日)
場所：千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス
総会・研究発表会：ルーム A
ポスター発表会：ルーム B
公開シンポジウム：CIT シアター
理事会：ミーティングルーム

プログラム概況

5月27日(土)		5月28日(日)	
08:30～09:00	受付	09:00～10:00	研究発表会・セッション3
09:00～09:15	開会式	10:00～10:10	休憩
09:15～10:15	研究発表会・セッション1	10:10～11:25	研究発表会・セッション4
10:15～10:20	休憩	11:25～11:30	閉会式
10:30～11:30	研究発表会・セッション2	11:30～12:30	エクスカージョン
11:30～12:30	昼休み		
12:30～14:00	ポスター発表コアタイム		
14:00～14:45	総会		
15:00～18:00	公開シンポジウム		
18:30～20:00	懇親会		

参加費

大会参加費 日本沙漠学会会員：4,000円
学生会員：2,000円
会員以外：6,000円
(事前登録者については予稿集1冊含む)
予稿集 1冊 2,000円
公開シンポジウム 無料

日本沙漠学会 第28回学術大会実行委員会

実行委員長：矢沢勇樹(千葉工業大学)
連絡先：〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1
千葉工業大学工学部応用化学科
TEL：047-478-0409
E-mail：jaals2017@it-chiba.ac.jp
懇親会会場：PRONTO 東京ソラマチ店(東京スカイツリータウン・ソラマチ1F St. ストリート)
懇親会費：正会員：6,000円、学生会員3,000円

【1日目】口頭発表：2016年5月27日（土）午前

NO	時刻	題 目（○は発表者）
001	09:15 - 09:30	天然腐植資材を沙漠に適用する上での留意点 ○矢沢勇樹 千葉工業大学工学部・NPO 法人草炭緑化協会
002	09:30 - 09:45	ジブチ国沙漠地帯における硬盤層の特性 ○鈴木伸治 ¹ , 大山洋平 ^{1,3} , 田中 聡 ² , 渡邊文雄 ¹ ¹ 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科, ² 東京農業大学地域環境科学部造園科学科, ³ (株)鴻池組
003	09:45 - 10:00	タクリマカン沙漠における固定砂丘の生長年縞層と層内に含有する小結晶粒子 ○高村弘毅 ¹ , TASHPOLAT Tiyip ² , MUHTAR Qong ³ , 川野良信 ⁴ , 小玉 浩 ⁵ ¹ 立正大学名誉教授, ² Xinjiang Univ., ³ 元東海大学, ⁴ 立正大学地球システム学科, ⁵ 国際航業(株)
004	10:00 - 10:15	半世紀間における黄砂の地域別観測日数・比率の変化 ○真木太一 九州大学名誉教授・北海道大学農学研究院
休憩：10:15 - 10:30		

【1日目】口頭発表：2016年5月27日（土）午前

NO	時刻	題 目（○は発表者）
005	10:30 - 10:45	内モンゴル自治区アラシャー盟におけるラクダの牧畜生業 ○ソロンガ 千葉大学人文社会科学部研究科
006	10:45 - 11:00	モンゴルにおけるヒツジとヤギの資源選択性比較 ○川田清和 ¹ ・高橋健吾 ¹ ・Undarmaa Jamsran ² ¹ 筑波大学, ² モンゴル生命科学大学
007	11:00 - 11:15	オイラトモンゴル人の野生植物の生活利用—新疆ウイグル自治区イリ・カザフ自治州テケス県を事例に— ○巴依尔塔（バヤリタ） 千葉大学大学院人文社会科学部研究科
008	11:15 - 11:30	モンゴル国カザフ人の民族文様の実践—半乾燥地域におけるカザフ住居内部の事例から— —乾季と雨季におけるヒトコブラクダ（Camelus dromedarius）の行動パターンと餌資源の利用について— ○廣田千恵子 NPO 法人北方アジア文化交流センター・千葉大学大学院人文社会科学部研究科博士後期課程
昼休み：11:30 - 12:30		

【1日目】ポスターセッション：2017年5月27日（土） 終日～5月28日（日）午前

ポスターセッション・コアタイム：12:30 - 14:00

【1日目】総会：2017年5月27日（土）午後

総会 14:00 - 15:00

公開シンポジウム「☆（ほし）の沙漠に映された地球」：2017年5月27日（土）午後

公開講演会	題 目
15:00 - 15:05	司会挨拶 矢沢勇樹（千葉工業大学工学部）
15:05 - 15:20	300 インチ 3D 宇宙シアター「宇宙 138 億年の旅 地球そして生命」
15:20 - 16:10	南極隕石探査と月惑星探査から地球の成り立ちを考える（仮） 荒井朋子（千葉工業大学附属研究所惑星探査センター・上席研究員）
16:10 - 17:00	地球外生命体を求め惑星の起源と進化を考える（仮） 石丸 亮（千葉工業大学附属研究所惑星探査センター・上席研究員）
17:00 - 17:50	千葉工業大学 PERC の今後のミッション 和田浩二（千葉工業大学附属研究所惑星探査センター・副所長代行）
17:50 - 18:00	おわりに 矢沢勇樹（千葉工業大学工学部）

懇親会：2017年5月27日（土）

懇親会：18:30～ PRONTO 東京ソラマチ店

【2日目】口頭発表：2017年5月28日（日）午前

NO.	時刻	題 目（○は発表者）
O09	09:00 - 09:15	ケニア国サンプル県における土壌の吸水度を用いた表面流出量推定の可能性 ○ Kirui Samwell Kipkemoi, 渡邊文雄, 鈴木伸治, 鶴巻拓哉 東京農業大学大学院農学研究科農業工学専攻
O10	09:15 - 09:30	植林実験サイトでの流出率観測結果および最適設計の検討 ○菅沼秀樹 ¹ , 星 元樹 ¹ , 高橋優樹 ¹ , 宇都木玄 ² , 高橋伸英 ³ , 江頭靖幸 ⁴ , 小島紀徳 ¹ ¹ 成蹊大学, ² 森林総合研究所, ³ 信州大学, ⁴ 東京工科大学
O11	09:30 - 09:45	ADCP による流量測量結果を用いた水田の灌漑用水量の評価 ○丸山優樹 ¹ , 氏家清和 ² , Bouya Ould Ahmed ³ , Cherif Ould Ahmed ³ , 入江光輝 ⁴ ¹ 筑波大学生命環境科学研究科, ² 筑波大学, ³ ISET, Mauritania, ⁴ 宮崎大学
O12	09:45 - 10:00	ストーンマルチと局所攪拌耕耘を用いた節水農法の実証実験 ○實野孝久 ^{1,2} , 浜部 薫 ² , 徳本家康 ³ , 實野雅太 ⁴ , 田島 淳 ⁴ ¹ 大阪大学レーザー研, ² 太陽エネルギー利用推進研究会, ³ 佐賀大学農学部, ⁴ 東京農業大学
休憩：10:00 - 10:10		

【2日目】口頭発表：2017年5月28日（日）午前

NO.	時刻	題 目（○は発表者）
O13	10:10 - 10:25	西アフリカ・サヘルにおける都市の生ゴミを利用した環境修復とその社会貢献 ○大山修一 京都大学アフリカ地域研究資料センター
O14	10:25 - 10:40	5-アミノレブリン酸の植林に対する効果 ○田中 徹 ¹ , 高橋 究 ¹ , 富田啓治 ² , 泉 可也 ² ¹ SBI ファーマ(株), ² (株) Biomaterial in Tokyo
O15	10:40 - 10:55	ミャンマー中央乾燥地の灌漑地区における落花生種子の増産 ○藤本直也 NTC インターナショナル (国際協力機構長期派遣専門家)
O16	10:55 - 11:10	タイムラプス撮影を用いたユーカリ根の初期生長測定 ○鈴木誠一, 菅原一輝, 伊藤拓哉, 加藤 茂, 菅沼秀樹, 小島紀徳 成蹊大学
O17	11:10 - 11:25	落葉環孔性樹種における樹液流動特性の検証 ○依田清胤 ¹ , 安田 裕 ² ¹ 石巻専修大学理工学部, ² 鳥取大学乾燥地研究センター

【2日目】エクスカージョン：2017年5月28日（日）正午

エクスカージョン：11:30 - 12:30

千葉工業大学が誇る科学技術をお楽しみください。同フロアには、Area I にロボット技術、Area II に惑星探査研究の成果を応用した数々のアトラクションが展示されています。スタッフが皆さまを未来旅行に誘うことでしょう。

ポスターセッション：2017年5月27日（土）終日（コアタイム：12:30 - 14:00）～5月28日（日）

NO.	題 目（○は発表者）
P-01	2014年度および2015年度における日系企業のアフリカ進出動向 ○森尾貴広 筑波大学国際室
P-02	耕作放棄された谷戸田を囲む森林の機能性と今後の課題 ○竹内舞子 ¹ , 勝間田茜 ² , 矢沢勇樹 ² ¹ 千葉工業大学大学院, ² 千葉工業大学
P-03	モンゴルの放棄農耕地における施肥処理が群落構造に及ぼす影響 ○高橋健吾 ¹ , 川田清和 ¹ , 上條隆志 ¹ , 森 英樹 ¹ , Undarmaa Jamsran ² ¹ 筑波大学, ² モンゴル生命科学大学

P-04	三宅島の火山荒廃地におけるハチジョウススキの光合成特性に関する研究 ○張 秀龍 ¹ , 上條隆志 ² , 廣田 充 ² ¹ 筑波大学生命環境科学研究科, ² 筑波大学生命環境系
P-05	乾燥年の乾草原における降雨前後 Stipa krylovii と Allium polyrhizum の個体レベルで炭素交換特性 ○胡 曉星 ¹ , 上條隆志 ² , 烏 云娜 ³ , 廣田 充 ² ¹ 筑波大学生命環境科学研究科, ² 筑波大学生命環境系, ³ 大連民族大学環境資源学院
P-06	地被植物による塩類集積緩和効果 ○杉浦総一郎 ¹ , 田中 聡 ² , 水庭千鶴子 ² , 高橋新平 ² ¹ 東京農業大学大学院農学研究科, ² 東京農業大学地域環境科学部
P-07	ウガンダ国の灌漑農業の現状と課題 ○Denis Bwire, 渡邊文雄, 鈴木伸治 東京農業大学大学院農学研究科農業工学専攻
P-08	複数時期の衛星画像からみたサウジアラビア、ワディ・ファーティマの土地被覆変化 ○渡邊三津子 ¹ , 古澤 文 ^{2,3} , 石山 俊 ⁴ , 遠藤 仁 ⁵ , 縄田浩志 ⁵ ¹ 千葉大学, ² 奈良女子大学共生科学研究センター, ³ 片倉もところ記念沙漠文化財団, ⁴ 総合地球環境学研究所, ⁵ 秋田大学
P-09	西豪州荒漠地での植林地域における土壌化学性、炭素含有量及び地上部バイオマス量評価 ○赤城亮太 ¹ , 野澤 雅 ² , 庄司博紀 ² , 小川 顕 ² , 平岡由圭 ² , 菅沼秀樹 ³ , 加藤 茂 ³ , 小島紀徳 ³ , 酒井裕司 ⁴ ¹ 工学院大学大学院, ² 工学院大学工学部, ³ 成蹊大学理工学部, ⁴ 工学院大学先進工学部
P-10	津波塩害農地の除塩および土壌修復技術に関する研究(その3) 冬期栽培野菜の成分 ○杉本英夫 ¹ , 南條正巳 ² , 菅野均志 ² ¹ 大林組, ² 東北大学
P-11	ヨルダンにおける小麦栽培におけるシミュレーション灌漑の効果 ○藤巻晴行 ¹ , 坂口 巖 ¹ , Vinay Nangia ² ¹ 鳥取大学乾燥地研究センター, ² 国際乾燥地農業研究所 (ICARDA)
P-12	ウズベキスタンのブドウ生産農家の収支分析: サマルカンド地方の事例研究 ○Sodikjon Avazaliyevich MAMASOLIEV, Atsushi CHITOSE, Motoi KUSADOKORO, Shiho KAGAMI, Yoshiko KAWABATA, Masaaki YAMADA Dep. International Environmental and Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology
P-13	ウズベキスタンの野菜生産の社会経済性に関する事例研究 ○Elmurod Erkinovich BAYNAZAROV, Yoshiko KAWABATA Dep. International Environmental and Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology
P-14	乾燥地植林による広域での水移動パターンの変化 ○高橋優樹, 三谷一太, 横佩おさむ, 菅沼秀樹, 小島紀徳 成蹊大学
P-15	ヤナギを用いた荒廃農地の有効利用法に関する研究 -AM 菌接種によるヤナギの生育促進の可能性- ○長澤昇汰 ¹ , 佐藤 萌 ¹ , 早川 敦 ¹ , 高橋 正 ¹ , 栗本康司 ² , 杉本英夫 ³ , 青木雄二 ³ , 日高 伸 ⁴ , 石川祐一 ¹ ¹ 秋田県立大学生物資源科学部, ² 秋田県立大学木材高度加工研究所, ³ (株)大林組技術研究所, ⁴ (社法) 日本土壌協会
P-16	ジブチ国 Kourtimalei 集水域における GETFLOWS を用いたイベントベース・シミュレーション ○Fadoumo Ali MALOW, Sawahiko SHIMADA, Tatsuya HIROKANE, Hitomichi TOYODA, Ayako SEKIYAMA, Hiroyuki TOSAKA 東京農業大学大学院農業工学専攻

本誌同封のはがきを投函してください

学術大会に参加される方は、本誌同封のはがきが参加申込になります。事前登録扱いになり、参加費が割引になりますので忘れずに投函してください。

正会員および名誉会員の方は、お手数をおかけいたしますが、出席、欠席にかかわらず必ずご回答ください。ご欠席の場合でも、総会成立のためには委任状が必要となりますので、委任状にご記入のうえ、投函してください。

締め切り：2017年5月15日（月）当日消印有効

メールでの提出も可能です。jaals2017@it-chiba.ac.jp（大会事務局宛）までお送りください。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

学会記事

日本沙漠学会第128回理事会 議事録

日時：2017年1月7日（土）15：00～17：00

場所：京橋プラザ区民館（東京都中央区）

出席：小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、白石雅美、鈴木伸治、田島 淳、田中 徹、矢沢勇樹、豊田裕道、森尾貴広、酒井裕司（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、安部征雄（顧問）、島田沢彦、橋 隆一、的場泰信、石川祐一、依田清胤、齋藤哲治（オブザーバー）

委任状：吉崎真司（以上、理事）

I. 審議事項

1. 第127回理事会議事録の確認
 - ・内容についてはメール審議済み。議事録を確認した。
2. 2016年度学会賞受賞候補者推薦について
 - ・現在のところ推薦は無い。締切は2017年2月28日。より一層の周知や編集委員会との連携も視野にいれ、活性化を目指すことが確認された。
3. 第28回（2017）学術大会（千葉工業大学）について
 - ・会場はスカイツリータウンキャンパスソラマチ8階を予定。プログラムの草案等はできているので残りは適宜各位の予定を確認し細かく決めていく。宿泊の案内はしない。懇親会は同ビル1階で開催する予定。エクスカッションはロボットと惑星探査の展示を予定している。
 - ・事務受託について委託先である共立より代表者が挨拶を行うよう打診した。
 - ・プログラムは沙漠研究26-4のおあしすに掲載予

定。

- ・一斉配信メールにて大会申込及び委任状の提出願
4. 2017年秋季シンポジウムについて
 - ・詳しい内容について検討中。10月中いずれかの土曜日に開催する予定。4月には決定の報告が行える予定。
 5. 今後の学術大会・秋季シンポジウムの日程と開催地について
 - ・2019年度の開催候補として学術大会に、地球環境研・酪農学園大、秋季シンポジウムに前橋工科大などの名前が挙がった。
 - ・国際大会の日程について参加のしやすい日程になるよう要望を出すことが確認された。

II. 報告事項

1. 2016年秋季シンポジウムについて
 - ・2016年10月15日（土）に、名古屋学院大学「栄サテライト」で開催された。参加者は26名。盛況に滞りなく開催された。沙漠研究26-4で特集が組まれる予定。
 - ・シンポジウムに合わせ第127回理事会を開催した。
2. 次期役員選挙について
 - ・本来選挙権を持たない学生会員にも投票用紙を送付してしまったため、再送を行った旨報告された。確認をより一層行い再発の防止を徹底する。
 - ・今後の予定
2017年1月16日 開票
2月16日 互選による会長選出投票依頼

2月20日 開票

3月13日 理事選任投票依頼

3月23日 開票

4月に新会長の指名により、副会長2名、評議員5名以内、理事2名を決定する。

4月の新理事会（14・15日のいずれかを予定）で監事2名を選出し、結果を5月27日の総会にて報告する。

3. 編集委員会

- ・現在のアクセプト済及び審査中の論文について報告された。アクセプト済の論文16編、審査中の論文7編。
- ・査読のレスポンスを高めるため査読者の増員を考えている旨が報告された。
- ・分科会の講演会の小特集を査読付きとする際の編集委員会や理事会での情報共有について確認した。
- ・1つの引用文献で著者が100名を超えるというものがあり、編集規定の改定を検討している。
- ・細かなフローの作成など従来の考え方を変える必要がある（査読者からの返答が無い場合にどうす

るか、そういった状況下での編集委員長権限をどの程度とするか、等）。

- ・分野間の編集委員の負担の偏りの解消について検討すべきとの意見が出された。今後、議論を続けていく。

4. 総務委員会

- ・会員の入退会についての報告がなされた。
- ・今回のように、今後の理事会も都内の会議施設で行うことを主体とする旨確認した。

Ⅲ. その他

1. 総務委員会

- ・会計監査の時期が近づいているので準備等を進めて行く旨確認された。

2. 今後の理事会日程

- ・第129回理事会（新旧合同）および第30回評議員会の開催日について、第一候補として2017年4月15日（土）、第二候補として4月14日（金）が提案された。次期会長の意向により決定する。なお、理事会は13:00～、評議員会は15:00～開催予定とする。

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

●新入会員

正会員（2016年度入会）

上條 隆志（ID:1105, 筑波大学生命環境系）

廣田千恵子（ID:1107, NPO 法人北方アジア文化交流センターしゃがあ）

学生会員（2016年度入会）

Dayah Aden Guirreh（ID:1099, 東京農業大学大学院農学研究科農業工学専攻）

ソロンガ（ID:1100, 千葉大学人文社会科学研究所）

竹内 舞子（ID:1102, 千葉工業大学大学院工学研究科生命環境科学専攻）

高橋 健吾（ID:1104, 筑波大学生命環境系）

張 秀龍（ID:1106, 筑波大学生命環境科学研究科）

長澤 昇汰（ID:1109, 秋田県立大学 生物資源科学部）

正会員（2017年度入会）

小長谷有紀（ID:1108, 人間文化研究機構）

●退会会員

正会員

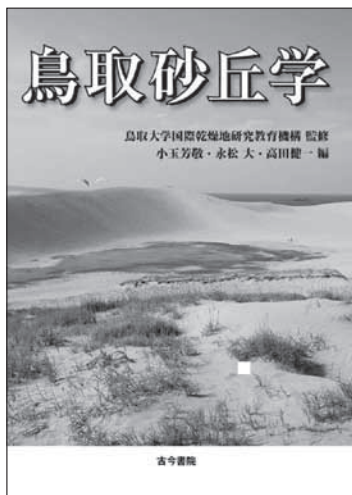
櫻井三紀夫, 佐々木洋介, 斎藤久登, 佐藤向陽, 韓峻奎, 河内 敦, 宮寄英寿, 向後紀代美, 柚 浩二

~~~~~ 賛助会員・団体会員名簿 ~~~~~

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel : 03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060

書 評

小玉芳敬・永松 大・高田健一 編：「鳥取砂丘学」古今書院，2017年3月22日発行，102頁，3,200円



「鳥取といえば砂丘」，現地に行ったことがない者でもそう答えるだろう。鳥取県のすぐれた自然のひとつである鳥取砂丘は，その雄大なスケールや砂に描かれた風紋で有名だが，そうした景観だけではなく，さまざまな学術的魅力に満ちあふれている。それゆえ，鳥取砂丘は，鳥取大学が創立以来，重要な研究対象となっている。古くは，砂丘地における植林や砂丘の農業利用の研究が行われたが，近年は，砂丘をフィールドとする地学・生態学研究も盛んである。そのような学術的成果をもとに，天然記念物であり，山陰海岸国立公園の中心である鳥取砂丘の保全にも貢献してきた。

本書はそのような研究成果や社会貢献をふまえ，鳥取大学の全学共通科目「鳥取砂丘学」に利用するための教科書としてまとめられたものであるが，同時に，砂丘について学ぶ初学者の入門書となる好著である。本書は，以下のように12章からなり，執筆陣は鳥取大学の教員を中心に，その専門分野は農学から地学，生態学，考古学，文学と多彩である。

- 第1章 鳥取砂丘の概要と近現代の変遷
- 第2章 流域流砂系からみた鳥取砂丘
- 第3章 鳥取砂丘の風況と飛砂
- 第4章 砂丘にみられる微地形の成因
- 第5章 鳥取砂丘にみられる砂丘形態の特性
- 第6章 鳥取砂丘のオアシス
- 第7章 鳥取砂丘にみられる生態系

- 第8章 鳥取砂丘の植生管理と動植物への影響
- 第9章 鳥取砂丘の成立史と環境変遷
- 第10章 砂丘遺跡・遺物からみた人々の暮らし
- 第11章 鳥取砂丘と文学・芸術
- 第12章 砂丘研究から海外乾燥地研究へ

本書は，第1章の鳥取砂丘の概観から始まり，第2章では砂丘の自然環境が直面する課題を広域的視点から俯瞰し，第3章～第5章では気象・地象を微視的視点からとらえている。第6章では砂丘の水文現象が，第7章～第8章では砂丘の生態系とその保全が述べられている。第9章では地質時代の砂丘形成史，第10章では考古遺跡・遺物からかつての人間活動を推察し，第11章では砂丘を扱った文学・芸術を紹介している。そして，最終章では鳥取大学における砂丘研究史についてまとめられている。

本書を読み進むと，鳥取砂丘のような海岸砂丘は日本のいたるところでみられ，河川と海流によって運ばれた砂が強風により打ち上げられ，砂丘を形成したことがわかる。砂丘は砂漠のような姿をみせているが，砂漠ではない。鳥取では年降水量がおよそ2,000mmであるので，条件が整えば森林ができていい。砂丘が形成されたのは，海岸特有の河川・海流・気象などの条件による。

近年，砂丘への砂供給が減少したことなどにより，砂丘が「草原化」している。これを受けて，天然記念物，国立公園特別保護地区としての砂丘景観・生態系を保全するために，除草活動がボランティア・観光客も巻き込んで行われている。砂漠化防止や砂漠緑化に携わる方々には，複雑な気持ちにさせることかもしれない。

最終章は評者自身が鳥取大学在籍中に関わった乾燥地研究について述べられている。鳥取大学で始められた砂丘の農業利用研究が一段落して，その成果を世界の砂漠・乾燥地に展開していった経緯が詳しい。現在は，国際乾燥地研究教育機構のもと，オール鳥取大学で乾燥地の学際研究が始まった。

本書の口絵には四季折々に表情をかえる砂丘のマクロ・ミクロな姿が映し出されており，旅情がかきたてられる。鳥取砂丘のユニークさは，これが研究のみならず観光にも利用され，なによりも，人々の暮らしや心象風景に根づいていることだ。このように，本書は鳥取砂丘のもつさまざまな魅力を鳥取大学が携わった多様な研究にもとづいて解説したもので，砂丘に対する研究者の暖かい眼差しが感じられる。皆さんも本書を片手にかかえ，砂丘を訪れることをお勧めする。

篠田雅人 (名古屋大学)